

# 今月の逸品

NO.26 2017.05



ヲホルリ (♂)・アヲバト (♀)

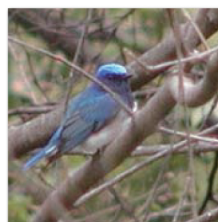
島津製作所標本部製造

ヲホルリ : 1931 (昭和6) 年9月採集 全長 140 mm

アヲバト : 1932 (昭和7) 年2月採集 全長 260 mm

師範学校以来、教材として使用されてきたオオルリ (♂) とアオバト (♀) の剥製標本。良好な保存状態とはいえませんが、学内で見られる鳥ということから、教育的観点のもと保管されてきた。1930 (昭和5) 年の島津製作所の販売目録『動物学及生理学標本』に掲載されている。オオルリとアオバトは、毛並みの色でオス・メスを区別することが可能である。オオルリのオスは、背中・尾が青色で光沢を帯び、尾の基部には左右白斑があって、黒色の喉・顔、白色の腹をもつ。これに対してメスは、頭から尾にかけて背面が茶褐色で、喉と腹は白色、胸と脇が褐色である。アオバトは、頭から胸にかけて黄色、腹はクリーム色、肩から羽が暗赤色なのがオス、全体的にオリーブ色で、虹彩の外側が紅色、内側が青色であるのがメス。ただし、アオバトのオス・メスをこの標本から識別することはむずかしい。オオルリは、ピールリー、ポピリー、ルルッ、と美しい声で囀る夏鳥で、日本では九州以北で繁殖し、5月から7月にかけて白・黄色の卵を4~5個産む。アオバトは、アオー、アオーと鳴き、北海道から九州まで全国的に繁殖し、6月に乳白色の卵を2個産む。

参考文献 : 『世界文化生物大図鑑 鳥類』 (世界文化社)  
『原色鳥類図鑑』 (保育社)



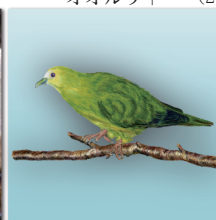
オオルリ♂ (1)



オオルリ♀ (2)



アオバト♂ (3)



アオバト♀ (4)

写真撮影 : 坂東忠司 (本学名誉教授)

(1) 2006.04.23 (3) 2007.01.26

(1), (3) キャンパス内で撮影

スケッチ図 : (2), (4) 古原朋子 (本学非常勤職員)